

全蜀王通鑑

東京教育大賞
全學用字委員會
情宣機與紙

として抱え、それへの全面的対決を通りて、既得権益集団にむけたの争を展開すべく斗争競けたところの全学斗争委員会より、現在の、たゞ争春に対する外分ならびに、今在す定されでいるところの政治処分の意味するものと、それへの我々の方針性を提出して来たい。

移動推進を中心とするところの現在の大問題は、現任の日帝の東洋アジアにおける位置の変化と、それに応じたところの日内が全ての分野にわたる社会再編に、積極的に加担し、本自由化、技術の自主開発と大義名分による教育の分離と、それに貢献したところの第三学院大學相思の実現を日帝マルショウジーの宿題とともに、全ての学問の中立と各研究の自由——つまり美諱私同をめぐりて、あると見えるは、異色的な形態を背景にして、貴賤せよつとしている。その具体的表現が、移動隊導入——日本クマヤー一大學立法といつ権力的強圧なのである。また、そのような大學当局に対する二つの文教政策を中心とする移動反対派は、大学の自治を主張しな、研究の自由を守ること、

現実にマルシケ社風の中に入り込まれてゐる大學に対する批判を及ぼし、社風再編へ日帝の急務と定めたのである。一方、政黨に於ける既存の一大貴族としての現実の大學生再編を許可せず、結局、斗争主体に対する強制的鎮圧。後に、教育大の文部省の二重部はさけるや否などといふ形でしみ大學当局に日本秋刀に対する解決できなかつたのである。そして、その心が的帰結として、大學当局の正當化にのつた、「昨年の九月の授業再開以降、全く、大學当局からの要求に対し、一步一歩確実に右退していき、最終的に、教育的外骨なる名目で、自分は一日も行ひりとりつてリにさみぬけうず、大學当局の革命派学生に対する最后の彈圧の完成に力をもつていていたのである。

而庄の進化一をめざす若狭する、反戦派陽初春、そして風共闘を中心とした新庄翼の指導する中にあって、1918年以降の反戦斗争、學園斗争といつた階級斗争の高揚發展は、開田主义海タレジヨウジの意圖^{（開田）}に政策の實績を許さないな故に、暴行装置・武力隊・準軍隊の全面活用・肥大化、本軍改進自衛隊の治定訓練法規^{（規）}の改定・典型的には大學生会などの权力再編・そして階級争奪政策として、ナショナリズム、ナチス理説に基く未来学の提起としてのイギオロギー、政セとして、教育の固定・日帝のアジア東洋民族の實徵の保証く、又つ、日本階級斗争の正役・反軍命体制の確立としてある現在、まさに教説の環としてあつて教育大は、完やキなまでに費散し、一回の運動を正役してゐる。しかしながら一時に合戻を禁じ、機なくさざりでりる現在、そうした改革的体制に対する波瀾争の過程で全面的に破壊した、進歩的オーバーをせんじする我反対、反革体制を側面から支え、其の現としある政治処分の撤廻をせまつていく斗争をくんでいく必要がある。さらに、それ故、教育大の反革命体制の暴力的、強制的実体をもった压殺策動を偏縛するだろう。しづこながら、それへの全面的、周到な、全ての諸斗争との総合をほかる中より、六月の全人民的政権斗争としてある安保斗争へと約束してゆふねばならぬ。

- ・**13日** 12:00
掲示板前全学斗争会
2:00
文教後援会団交
 - ・**14日** 早朝
三五星斗争会
5:00
入管問題粉碎斗争
(喜島公会堂)
 - ・**15日**
愛媛抗議カルタ西海岸
A.M.7:00
大規模グランンド
12:00
掲示板前全学斗争会
5:30 日比谷公会堂
防災会議粉碎
全国共斗全曰反成
終末廷集会
 - ・**16日** ハ100北郷
全学斗争会活動
 - ・**20日** 12:00
市2被文教後援会団交